

弁護士S そうですね。僕らも普段、子どもが法廷を見に来ることはないよね。

柘田 父親がプロ野球選手ということあまり意識しないで育ててほしいというのもあるので。

弁護士S 子どもたちは学校や幼稚園でお父さんのことを言われたりするんですかね？

柘田 「昨日、パパ打ったね！」といわれて知ることあるみたいです。スタジアムで観戦するのも年に2、3回くらいなんです。基本的には主人が疲れて帰ってきたときに、すぐご飯を食べさせてあげたいですし、子どもたちは8時には寝てしまうので。

弁護士S ナイターだと難しいですよね。

柘田 だんだん子どもも大きくなってきたので、スタジアムにも行ってみたいと思っているところです。

おふたりも話しやすく、弁護士さんということをお忘れ下さい。

弁護士Y ドラマ「99.9—刑事専門弁護士—」に出演されていましたよね！

柘田 キャスター役なので特に演技をしたわけではないんですけど、出演させていただきましたね。弁護士系のドラマって、本物の弁護士さんが見て矛盾を感じることはないんですか？

弁護士Y 逆に矛盾のない作品はないですね。(笑)

弁護士S 実際には複数の案件を同時並行で担当するのでドラマのようにはいきませんよね。自分も1件だけを担当できるなら、あんなふうにやってみたいです。でも、ドラマを見て、初心を忘れて自分に気付かされることもあります。

弁護士Y 柘田さんは、弁護士というとどんなイメージをお持ちですか？

柘田 私は、最初にお会いしたのが八代英輝弁護士なので、すごく親しみを感じていて、困ったら気軽に相談できるイメージですね。

弁護士Y うれしいですね。

柘田 親友の旦那さんも弁護士をされているので、ちょっとしたことを日常的に相談したり。私は意外とお世話になっていますね。裁判まではしたことないですけど。(笑)

弁護士S 実際会って話すと身近に感じてもらえるし、気軽に相談していいんだと思われるんでしょうけど。

柘田 今日も、おふたりとも話しやすく、弁護士さんということをお忘れ下さい。(笑)

弁護士Y (笑)ありがとうございます。自意識過剰かもしれませんが、街を歩いていたら気付かれるかなと思って、普段は弁護士バッジも付けていないんですよ。柘田さんは街で声をかけられることも多いんじゃないですか？

柘田 意外と私は街に溶け込んだりするので見つからないですが、主人はマスクをしようと眼鏡をかけようと、太ももが異常に太いのですぐ見つかります。(笑)

弁護士S 広島の方はさすがに気付きますよね。

柘田 堂林という苗字もすごく目立ちますね。

柘田絵理奈

1985年12月25日生まれ。神奈川県横浜市出身。

2008年、TBSに入社。料理番組「チューボーですよ!」、情報ワイド番組「ひるおび!」のアシスタントを務めるなど、「マスパン」の愛称でエースアナウンサーとして活躍した。広島東洋カープの堂林翔太選手と結婚後、拠点を広島に移し、フリーアナウンサーに。テレビ、ラジオ、イベントMC、エッセイ執筆など、ますます活躍の幅を広げている。



弁護士S 迷子のお知らせとか、一瞬でバレちゃいますね。やっぱり街で声をかけられるのは迷惑ですか？

柘田 私自身はしゃべるのが好きなので、そのまま立ち話をしてしまうくらいですが、子どもはびっくりにしてしまうかもしれませんね。

弁護士S 今はSNSで書かれたりするから対応も大変ですよね。

柘田 SNSはちょっと気になりますね。子どもといるときは特に、知らないうちに写真を撮られて、SNSに載せられたら困るなあ、というのはあります。ひとこと声をかけてくだされば、写真くらいは撮りますので。お化粧さえていけば。(笑)

弁護士S 有名人であるがゆえの悩みですよね。

柘田 うっかり写真が流出していないかSNSで検索したりしますね。最低限のマナーとして、家で楽しむぐらいに留めてくださっているのか、SNSに写真が流出するということは今のところ一度もありません。

弁護士S 困ったときには気軽に私たち弁護士に相談してくださいね。

柘田 本当にそうですね。そう言っていただけると心強いです。



家族の時間を大事にしてくれていることは、子どもたちにも絶対に伝わっていると思います。

弁護士S シーズンオフはご家族いっしょに過ごせるのですか？

柘田 シーズンが終わっても、11月は秋季キャンプ、1月は自主トレ、2月は春季キャンプに入ってしまうし、12月はトークショーがあったり、体のケアで県外に行ったりすると、本当に家にいないなあという感じですね。12月15日